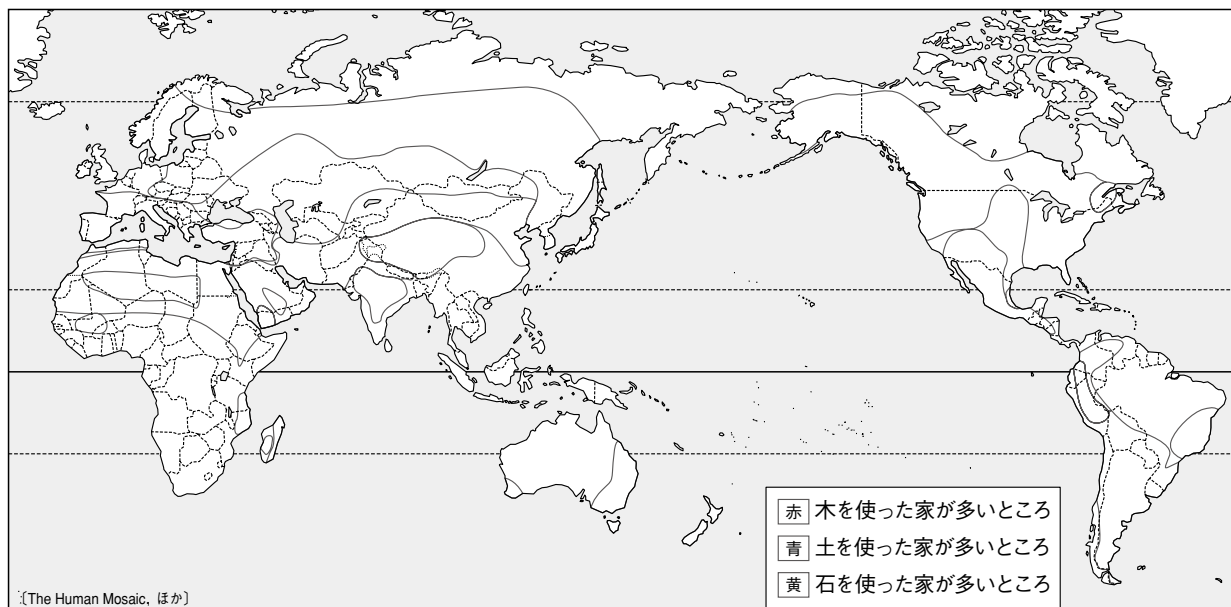


## 世界の衣食住

参考資料：『新詳地理B 初訂版』p.106-107、『新詳 資料地理の研究』p.210-211、『新詳地理資料 COMPLETE 2011』p.128-131

### 世界の衣食住の分布

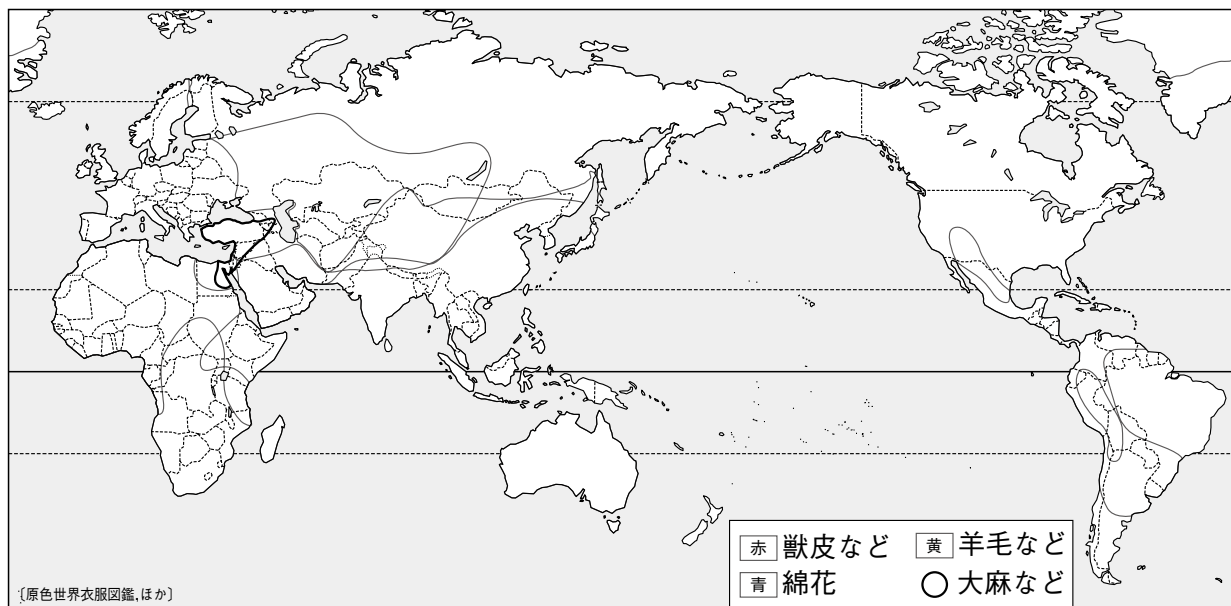
作業1 次の地図に伝統的な家屋における材料の分布を、凡例にしたがって色をぬろう。



#### 設問①

伝統的な家屋に木や土、石が使われる理由は何か考えてみよう。

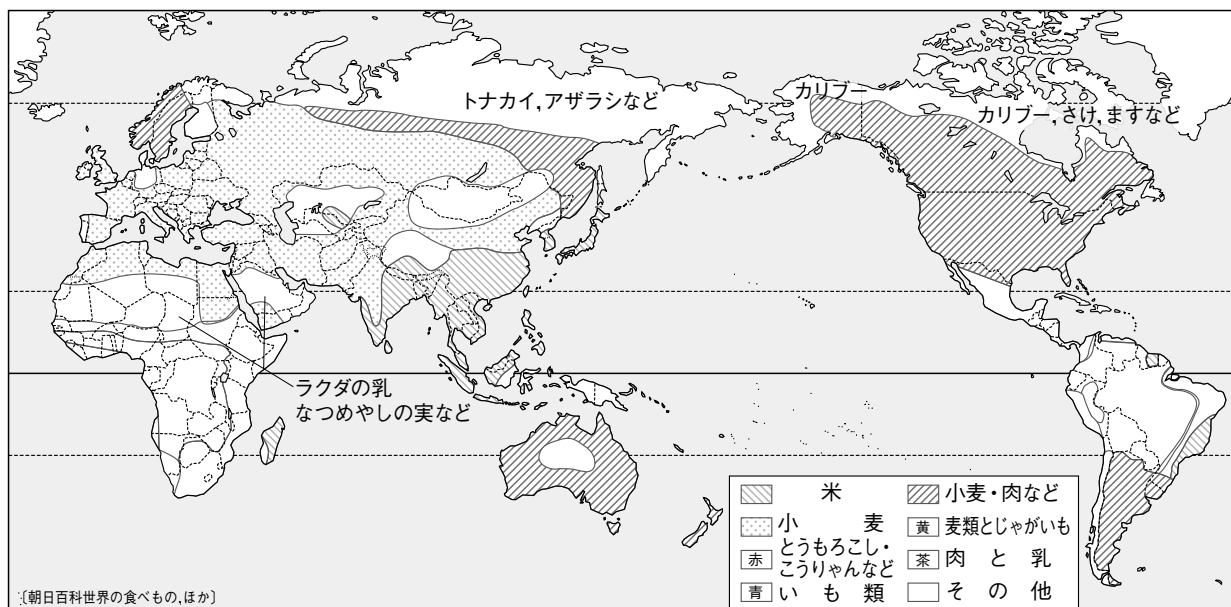
作業2 次の地図に伝統的な衣類における材質の分布を、凡例にしたがって色をぬろう。



#### 設問②

伝統的な衣類に獣皮や綿花などが使われる理由は何か考えてみよう。

作業3 次の地図に伝統的な主食になる食材の分布を、凡例にしたがって色をぬろう。



#### 設問③

伝統的な主食による米・小麦の栽培地域の気候の特色について考えてみよう。

## 世界の衣食住 解説・解答

参考資料：『新詳地理B 初訂版』p.106-107、『新詳 資料地理の研究』p.210-211、  
『新詳地理資料 COMPLETE 2011』p.128-131

## I 世界の衣食住の分布

世界各地において衣食住は、“ところかわれば品かわる”ものであることはよく知られている。しかし、それが気候・地形・風俗習慣等により異なったり、ある程度の共通性があったりすることは体系的に整理されているだろうか。気候と伝統的家屋ならそこでとれる材料など、伝統的衣類や主食なら栽培作物や家畜などといった、その土地の風土に起因しているものが、各地域の衣食住に大きく影響をおよぼすのである。

## II 伝統的な家屋における材料

その土地の樹種や木の豊かさに応じて違いがある。北ヨーロッパやロシア、北アメリカでは、松、モミ、トウヒ類などの針葉樹が豊富で丸太や枝などが使用される。オーストラリアやニュージーランド、ブラジル東南部は、木材を利用した家屋を好むヨーロッパ系が移住してきたため木造の家屋が主である。一方日本は高温多湿な気候のため、通気性のよい木造の家が多い。なお総木造りもあるが、石、土、草、竹、やしなどを組み合わせる地域もある。

土でつくる家屋は、アフリカなど乾燥気候の地域に集中している。乾燥地域は木材や石が少ないため、日干しレンガ積みや土積みの家となっている。

石を材料にした家が多いのは、南ヨーロッパ、西アジア西部、インド、中国山岳地帯などである。降水量が少ない地域では、家材となる木材が少なく、加工しやすい凝灰岩や石灰岩が得やすいため、石を材料にした家が多い。

## III 伝統的な衣類における材質

近年グローバル化した世界において、伝統的な衣類は冠婚葬祭などで使用されるのみということが増え、世界的な衣類の差は薄れている。しかし、気候やその地域で得られる材料により、いまだ違いはみられる。

獣皮を衣服に使う地域は、遊牧や狩猟により材料が得られる地域である。寒冷地では防寒が主なる目的である。スカンジナビア半島北部やロシアのコラ半島にいるサーミは、トナカイの遊牧を行っており、トナカイの皮でできたズボンや靴（モカシン）を使用している。乾燥地では、日射や防砂、防寒の役割も果たしている。

木綿は温暖な綿花の産地である中国やインド、アフリカの赤道以北で使われている。羊毛などを加工する毛織物地域は、ヨーロッパ全体だけでなく、全世界的で気候区は問わない。毛は羊、ヤギ、ラクダ、ウサギなどから得られ、加工しやすく保温性に優れている。絹織物生産地は、中国で始まりシルクロードでヨーロッパに伝わった。軽く、丈夫で通気

性がよく、天然繊維の王様とよばれる。

## IV 伝統的な主食になる食材

主食はその地域で採れた作物を加工・調理したものが基本となっているため、気候による違いが大きい。

大きくは米、小麦、大麦、とうもろこしなどの穀物と、じゃがいも、さつまいも、タロイも、キャッサバなどのいも類が主となる地域に分けられる。米はモンスーンアジア地域、小麦はヨーロッパや北アフリカ、南西アジア、またヨーロッパ人が住んだ新大陸で食され、パンに加工されることが多い。とうもろこしは中南アメリカ、いも類はアフリカ中部やアマゾン川流域の先住民、南太平洋諸島で主食となっている。いも類は根菜農耕文化圏（中尾佐助らの『栽培食物と農耕の起源』）に属し、有害なものはでんぷんを取り出して、それ以外は蒸して食べるか、餅に加工している。

肉と乳が主食の地域は、トナカイやアザラシなどの獣、海獣を狩猟する北極海沿岸の少数民族が住む地域である。またモンゴルや中央アジアの乾燥地域では、羊やヤギ、ラクダなどの遊牧を行い、乳や乳製品（チーズ、バター、ヨーグルト）を食用にしている。高山気候のチベット高原では、ヤク（ウシ科）を飼育し、乳や肉を食用としている。

## V 現代の地域文化と食生活

食についてもグローバル化による流通で世界的に差異はほとんどなくなっている。

そのようななか、世界的な多国籍企業のマクドナルド（本社はアメリカ合衆国）は、各国・地域において特別なハンバーガーを販売している。タブー（禁忌）として食べないも

のとして、インドではヒन्दゥー教徒が多いため牛肉は用いず、「ベジタブル」か「ノンベジタブル」を選択できる。ムスリムもいるため豚肉も用いない。他に地域の特色を生かしたものとしては、フィンランドでは寒冷地で栽培できるライ麦、タイでは特産の長粒米でつくられたバンズを使ったハンバーガー、日本ではしょうゆで味付けされたてりやきのハンバーガーを販売している。

世界的には安全・安心、低カロリーの日本食がブームになっている。そのため世界各地に日本料理店があり、アメリカ合衆国、ヨーロッパの主要国、発展いちじるしい中国などを中心に2万～2万4000軒あるといわれている。

## ■ 解答 ■

設問① 解説 II 伝統的な家屋における材料 参照

設問② 解説 III 伝統的な衣類における材質 参照

設問③ 例：米は高温多雨、小麦は冷涼でやや乾燥した地域で栽培されている。

伝統的な家屋における材料、衣類における材質、主食になる食材の分布を比べてみよう。いずれもケッペンの気候区や植生分布、土壌分布と関連性のあることがわかる。そこで気候区ごとにみるとその特色が理解できる。たとえば、熱帯雨林気候なら木や土を材料にした家が多く、衣類は綿花（木綿）を使用したものが多い。主食になるものは東南アジアでは米、南アメリカやアフリカではいも類となる。